

日本臨床教育学会 第16回研究大会開催要項 (第2次案内)

1. 大会日程

＊理事会：2026年10月16日（金）15:00～17:00

＊1日目：2026年10月17日（土）9:30～17:30

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:30	17:30
受付	課題研究 I	休憩	自由研究発表 (A) 一般研究	休憩	シンポジウム	

1日目終了後、同会場にて情報交換会を行います。(Peatixから事前予約をお願いします)

＊2日目：2026年10月18日（日）9:30～16:45

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:30	16:45
受付	課題研究 II・IV	休憩	自由研究発表 (B) 実践事例研究	休憩	定期総会	

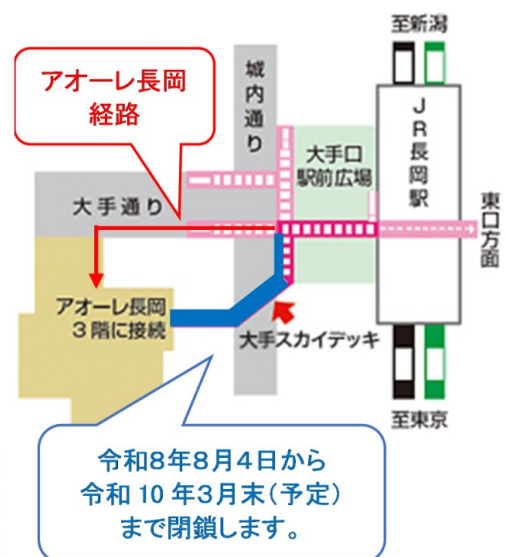
2. 会場

アオーレ長岡（新潟県長岡市大手通1丁目4番地10）

※ プログラムによっては近隣（徒歩5分）の
ミライエ長岡を併用します。

＜アクセス＞

- JR長岡駅の改札を出て中央口（大手口）へ進み、歩道橋を渡り、大手通り沿いに進みます。100mほど行くと左側にひらけたエリアがあり、そこがアオーレ長岡の入り口です。
- 詳しくはアオーレ長岡 HP をご覧ください→



会長挨拶

出会いと語り合いを「長岡」の地で

日本臨床教育学会会長 庄井 良信（藤女子大学）

日本臨床教育学会第 16 回大会は、長岡技術科学大学に近接する複合研修施設「アオーレ長岡」を主会場として開催されます。「アオーレ」には、出会い、語り合い、協働するという意味が込められており、その名称は本学会の理念とも響き合う魅力的なものです。

大会の準備にあたり、長岡技術科学大学の髙口僚太郎会員をはじめ、近隣の新潟医療福祉大学の会員の皆様などより多大なご協力を賜りました。また、上越新幹線長岡駅に隣接する美しい施設をご提供いただき、豊かな研究環境を整えてくださった長岡市ならびに長岡市教育委員会の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

日本臨床教育学会は、発足から 16 年を迎えました。子どもや若者の願いと不安に寄り添い、そのかけがえのない人生に伴走（伴奏）しながら、希望の端緒となる叢智を紡ぐ臨床的研究を続けてきました。個別・具体的な他者の声を丁寧に聴きとり、それを地域と共有し、生態学的な視座をもって、人間の社会的ウェルビーイングとは何かという根源的な問いを探究し続けています。

今大会では、開催地企画のシンポジウムをはじめ、継続的な課題研究や創発的な自由研究が多数準備されています。臨床教育学の新たな歴史を刻む第 16 回大会に、ぜひご参加ください。

大会実行委員長挨拶

第 16 回研究大会実行委員長 髙口 僚太郎（長岡技術科学大学）

日本臨床教育学会第 16 回研究大会の開催にあたり、実行委員長としてご挨拶申し上げます。新潟県での大会開催は今回が初めてとなります。世界的建築家である隈 研吾（くま・けんご）氏が設計した「アオーレ長岡」をメイン会場に、対面を基本としつつ、前回大会同様、課題研究とシンポジウムについてはハイブリッドにて開催することとなりました。

「アオーレ長岡」は JR 長岡駅から徒歩 3 分と近く、ペDESTリアンデッキで直結しています。開放的な屋根付きの広場「ナカドマ（中土間）」を中心に、アリーナや各種研修室などが一体となった木のぬくもりがあふれる全国でも珍しい複合施設です。ご参加の皆様を心より歓迎いたします。

会員の少ない新潟県での開催準備にあたり、実務の中心を担われた、本学会事務局長の渡邊由之先生、シンポジウムのテーマ検討においては、本学会会長の庄井良信先生、副会長の池田考司先生には心より感謝申し上げます。あわせて、院生・学部生を含む実行委員会スタッフ、長岡市教育委員会にもこの場を借りて感謝申し上げます。不慣れな点もあるかと思いますが、最善を尽くすため誠心誠意努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

日本臨床教育学会は、設立時から「現代の子どもと子ども理解」を研究課題の大きな柱として位置づけてきました。多くの子ども・若者が「生きづらさ」を感じていると評される現代社会において、様々な分野で「子ども・若者をどのように理解するか」という課題への接近が様々な取り組みされていると思います。しかし、合理的であることを注視するあまり、「目に見える行動変化」を重視した「実態把握」にもつながっているように感じます。このような子ども・若者理解は、客観性・因果性を重視してはいるものの、「生きづらさ」を感じる子ども・若者の「意味世界」への接近を副次的にはしていないかと思ひ留まることもあり、記念すべき 15 年目の研究大会での複数の出会いと無数の営みを通じて、いまいちど「理解」とは何かを考えることが、実践と研究の新たな一歩となることを願っております。

3. 大会実行委員会

大会実行委員長 高口 僚太郎（長岡技術科学大学）

大会実行委員 伊藤 敦美（長岡技術科学大学）

小堀 晶子（新潟医療福祉大学）

松元 圭（新潟医療福祉大学）

大会支援委員 渡邊 由之（東大阪大学）

4. 開催方法

- * アオーレ長岡にて対面での開催を基本としています。会場の情報機器の都合上、ZOOM によるオンライン参加は課題研究とシンポジウムのみとなります。よって、自由研究発表は、対面のみの実施となります。ご注意ください。
- * 参加申し込み時には、現地参加または ZOOM 参加のいずれかを選択してください（自由研究発表の発表者は現地参加のみとなります）。決済後の参加方法（現地参加／ZOOM 参加）の変更については、**学会事務局**【crohde2011@yahoo.co.jp】に連絡してください。
- * なお、感染症対策等により、現地での開催が制限される状況が生じた場合には、現地参加でお申し込みいただいた方を ZOOM 参加に振り替えたり、ZOOM 参加から現地参加への変更をお断りしたりすることがあります。何卒ご了承ください。

5. 大会参加費

【大会参加費】（現地参加もオンライン参加も同額です。）

一般：5,000 円 学生・院生：2,000 円

【長岡市民または長岡市内に通学・勤務する方のみ対象】

大会参加費 2,000 円（ただし、シンポジウムのみ参加は無料）

- * キャンセルされた場合の返金はいたしません。大会運営費とさせていただきます。会員以外の方でも上記の参加費でご参加いただけます。
- * 長岡市の市営施設（アオーレ長岡・ミライエ長岡）の利用について優遇いただいているため、今大会に限り「長岡市民または長岡市内に通学・勤務する方」については上記の対応をさせていただきます。

6. 参加申し込みについて

- ＊ 大会参加に関しては、**事前申し込み制のみ**とさせていただきます。

申し込み期間：2026年6月27日（日）～10月17日（土）

- ＊ なお、現地参加の場合、宿泊、昼食に関しては、各自で対応をお願い致します。会場周辺には、飲食店やコンビニエンスストアがあります。
海外からの観光者が多くなっているため、宿泊先の予約はお早めをお願いします。学会は宿泊先の斡旋をしませんので、各自をお願いします。
- ＊ 大会参加の申し込みと参加費の入金は、イベント管理ツール「Peatix」にて行います。
申し込みの際に「現地参加」または「ZOOM 参加」を選択して、チケットを購入（申込）してください。情報交換会にも参加される方は、参加チケットとは別に情報交換会のチケットも併せて購入してください。
- ＊ 「発表要旨集録」は事前申し込みのあった方のメールにファイルを添付してお送りします。
ただし、大会期間中に申し込まれた方には即時対応ができません（事務局が現地業務に徹しています）ので、予めご承知おきください。
- ＊ 「Peatix」による申し込み方法は、別添資料をご参照ください。

7. 自由研究発表の区分・発表時間について

【一般研究と実践事例研究の区分】

A：一般研究

臨床教育学の研究や実践の発展に関する一般的な学術研究です。子ども理解、障がい児・者の理解・支援、教育実践、幼児教育・保育、若者自立支援、教師教育、教師の専門性、人間発達援助、教師・援助者の課題・困難性、若手教師・援助者の自己形成、心の傷とケア、子ども・若者の身体、教育思想・教育実践史などの領域がこれまで報告されています。

B：実践事例研究

学校や福祉施設、医療・援助に携わる諸機関、NPO・NGO など、地域における教育実践や発達援助実践を、研究者と実践者が互いの立場を尊重しながら対等の関係で学びあい、新たな問いや学問研究の端緒を創発することを目指します。教育現場はもとより、心理、福祉、保育、養護、保健、療育、医療・看護、行政など、さまざまな領域の、あるいは領域を越えた発達援助実践に関わる研究を募集します。発表経験の有無は問いませんが、場合によっては発表形式の確認をすることがあります。

- ※ A・Bともに、学会事務局において申し込まれた発表内容を考慮したうえで分科会を組織します。

【発表時間】

A：一般研究は、発表 20 分、質疑応答 5 分です。ただし、共同研究で発表者が複数の場合は、発表 40 分、質疑 10 分とします。

B：実践事例研究は、1 報告 60 分（概ね発表 40 分、質疑応答 20 分）となります。発表者が複数の場合でも 1 報告 60 分です。

8. 会場受付について

- ＊ 会場の受付場所は、アオーレ長岡 3 階に設ける予定です。会場に着きましたら、必ず受付をしてください。
- ＊ 受付では、事前に申し込まれた氏名を印字した吊り下げ名札を用意しています。名札を受け取ったのち、大会にご参加ください。（一度受付を済ませば、両日参加できます。）
- ＊ 大会当日の金銭のやり取りはしません。必ず事前の参加申込を行ってください。
- ＊ 事前参加をされていない方が会場に来られた場合、その場で Web 手続き（本学会の大会用 Peatix ページからの申し込み）をしていただきます。手続き完了の通知メールを受付にて提示し、吊り下げ名札を受け取りください。なお、氏名欄にはご自身でご記入をお願いします。また、発表要旨集録は大会前にメール送信を終えていますので、その場ではお送りできません。予めご理解ください。

9. 大会発表要旨集録の配布、オンライン参加用 ZOOM アクセス情報の送信について

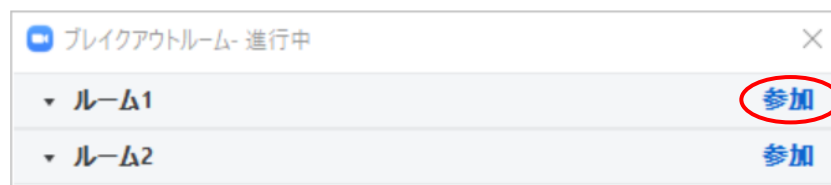
- 1) 発表要旨集録は大会の 1 週間前までに、司会者・発表者・参加申し込みをされた方々にメールで配布いたします。
- 2) ZOOM の利用時に、表示される氏名が異なる場合（iPhone などの携帯電話機種名や本名以外の表記になっている場合）は、ご本人の氏名に変更していただきますようお願いします。
- 3) 発表中、司会者・発表者以外の参加者は、ZOOM のビデオ及びマイクをオフ（ミュート）にしてください。インターネット回線の負担軽減が目的ですので、ご理解をお願いします。なお、会場によって司会者からオン・オフの指示がある場合は、上記の限りではありません。
- 4) 質疑応答においてご発言される方は、ビデオとマイクをオンにしてください。
- 5) 課題研究においては、ZOOM の「ブレイクアウトルーム」機能を用いて会場を設定します。はじめに、司会者・発表者を優先的に振り分け、事前打ち合わせをしていただきます。参加者は、開始時間の 5 分前を目安に、参加したい分科会を選び、会場を移動してください。移動方法がわからないときは、運営者がサポートいたします。

ZOOM 上での会場移動の方法（※PC 版を参考）

- ① 同時時間帯に別の会場がある場合、移動に際しては画面上の「詳細」から「ブレイクアウトルーム」を選択すれば、開設中の会場を選択する画面が開きます。



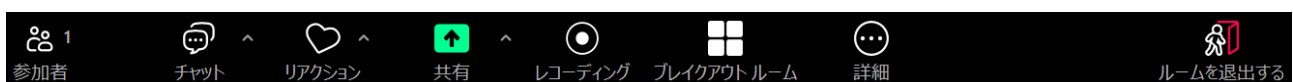
- ② 次に、移動したい会場の「参加」をクリックすると、その会場の画面に移動します。



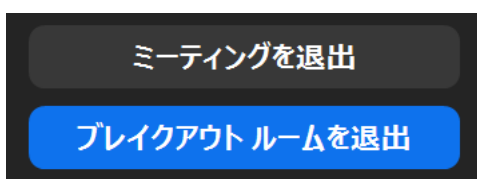
【注意】 会場（ブレイクアウトルーム）の自由選択は、アプリケーションのバージョンが古いと機能しないため、あらかじめ最新版のアップデートをお願いします。

- 6) 「ブレイクアウトルーム」を開設している間は、会場担当がそれぞれの分科会に参加しています。問題が生じた場合は会場担当者、あるいはメインルームの ZOOM 担当者にチャット機能などを通じてお伝えください。

- 7) 課題研究においては、討議が終わりましたら、会場ごとに休憩あるいは解散とします。すべての会場が終了したことを確認したのち、ZOOM 担当者が「ブレイクアウトルーム」を解除いたします。解除すると、すべての ZOOM 参加者が自動的にメインルームに戻ります。それを待たずに、ご自身でブレイクアウトルームを退出する場合は、下記をご参照ください。



ブレイクアウトルームから退室する場合は、「ルームを退室する」をクリックしてください。下図の画面に切り替わりますので、都合に合わせて退出してください。



← ZOOM を終える場合は、こちら

← ZOOM は終えず、メイン画面に戻る場合はこちら

8) 発表に際しては、ZOOM の「画面共有」が有効となっています。発表要旨集録以外の提示資料がございましたら、発表者自ら「画面共有」にて提示してください。

なお、発表または提案においては、日本臨床教育学会の＜倫理規程＞を遵守してください。特に、個人情報の保護を徹底してください。

10. 自由研究発表及び課題研究における司会者・発表者の皆様へ

1) 「自由研究発表(A) 一般研究発表」の司会者及び発表者の皆様は、開始時間の 15 分前に各会場に集まってください。開始 5 分前までに司会者との顔合わせや提示資料の確認、動作確認などを行います。各発表につき、発表時間 20 分、質疑応答 5 分(共同研究で発表者が複数の場合は、発表 40 分、質疑 10 分)です。すべての発表が終了しましたら、部会ごとに 20 分程度の全体討議を設けたのち、会場ごとに閉会してください。

2) 「自由研究発表(B) 実践事例研究発表」の司会者及び発表者の皆様は、開始時間の 15 分前に各会場に集まってください。開始 5 分前までに司会者との顔合わせや提示資料の確認、動作確認などを行います。各発表につき、発表時間 40 分、質疑応答 20 分です。すべての発表が終了しましたら、会場ごとに閉会してください。全体討議は設けませんが、残り時間があれば、行っていただいても差し支えありません。

3) 課題研究及びシンポジウムの司会者・発表者の皆様は、開始時間 15 分前までに各会場に集まってください。オンラインの報告者も、開始 15 分前に ZOOM にアクセスしてください。課題研究及びシンポジウムの司会者・発表者のうち、ZOOM で参加される方は、直前の打ち合わせにおいてブレイクアウトルームを設定することがあります。その際は、担当の指示に従っていただきますようお願いします。

4) 課題研究においては、ZOOM を用いてオンライン配信を行います。「画面共有」が有効となっていますので、当日提示する資料がありましたら、発表者自ら「画面共有」にて提示してください。なお、発表内で触れる第三者の個人情報保護を徹底してください。

***ZOOM 参加者に対して資料配布が可能な場合は、当日チャットに添付してください。**

5) 現地で発表される方は、当日提示する資料が配布可能であれば、対面参加者用に各自印刷してご持参ください。

***印刷部数の目安は、自由研究発表 20 部、課題研 50 部、シンポジウム 80 部です。**

***当日パワーポイントなどで資料を提示する場合は、ご自身のノートパソコンと発表資料のデータを保存した USB をご持参ください。学会のノートパソコンも用意いたしますが、ソフトウェアの互換性は保障できませんので、ご注意ください。**

6) 課題研究やシンポジウムにおける発表時間・発表順序につきましては、それぞれ異なりますので、担当者を中心に事前に確認してください。直前にも確認をお願いします。

7) 自由研究発表、課題研究、シンポジウム、それぞれについて、記録を残させていただきます。
そこで、**各会場の司会者あるいは参加者の中から「記録者」を決めていただきますようお願いいたします。**

記録者は、なるべく会員の方をお願いしてください。大会時、司会者の方に記録者についてお伺いします。その際、記録者の方の氏名、メールアドレスをご教示ください。後日、事務局から記録者に連絡をいたします。

記録者の方は、各会の内容を踏まえた 3000 字程度（A4 で最大 2 ページの分量）の記録を事務局に提出していただきます。なお、この記録は学会通信に掲載させていただくことがあります。

11. 発表辞退について

＊ **自由研究発表の予定者が発表を辞退する状況となった場合、大会発表要旨集録の差し替えを行う必要が生じるため、すみやかに学会事務局にご連絡ください。**

＊ 共同研究で申し込みをされたものの、いずれかの発表予定者の参加ができなくなった場合は、あらかじめ共同研究者間で代行を決めたうえで発表に臨んでください。加えて、欠席する（辞退となる）発表者の情報を事務局までご連絡ください。

＊ 発表辞退があった場合には、あらかじめ司会者に連絡をさせていただき、その後の発表時間を繰り上げて対応いたします。大会期間中に発表辞退があった場合、または発表者が会場に参加されていない場合も同様の対応となります。

＊ 自由研究発表（A：一般研究）での共同研究を予定していたものの、共同研究者の不参加によって単独発表になる場合は、**単独での発表時間（発表 20 分、質疑応答 5 分）を適用し、**その後の発表時間を繰り上げて対応いたします。

＊ 避けられない事情により発表者が当初予定されていた発表時間に遅れて参加した場合には、自由研究発表の残り時間が、遅れて参加した発表者の発表予定時間よりも多い場合に限り、発表を許可するものとします。

【参考】自由研究発表 A：一般研究（単独発表）の場合は残り 25 分以上、自由研究発表 A：一般研究（共同発表）の場合は残り 40 分以上、自由研究発表 B：実践事例研究の場合は残り 60 分以上でなければ、遅れてきた発表者の発表はできません。

1 日目
10 月 17 日 (土)



9 : 30 ~ 受付開始

10 : 00 ~ 12 : 00 課題研究 I

13 : 00 ~ 15 : 00 自由研究発表 (A) : 一般研究

15 : 00 ~ 15 : 30 休憩

15 : 30 ~ 17 : 30 シンポジウム

終了後、18 時 30 分頃より情報交換会

※ 課題研究Ⅲは実施いたしません。

10月17日（土）10：00～12：00

課題研究Ⅰ：現代の子どもと子ども理解

子ども理解の深化に向けて、子どもの生きづらさの根源を問う 第4回 性の多様性教育と子ども理解

報告：包括的性教育の一環としての性の多様性の教育
ー「生きづらさ」の根源を問い直す教育実践ー

渡辺 大輔（埼玉大学）

<趣旨>

「子ども理解の深化に向けて、子どもの生きづらさの根源を問う」というテーマのもと、2023 年度からは、「セクシュアル・マイノリティの子どもの生きづらさ」に焦点を当てて、子ども理解の深化をめざしてきた。第 1 回目の 2023 年は、片岡洋子理事が学校教育と性的マイノリティの生きづらさの基本問題について、国見亮祐さん（にじいろほっかいどう）が性的マイノリティの子どもの居場所「にじーず札幌」での活動をとおしての現状と課題について、報告して討議した。第 2 回目の 2024 年は、セクシュアル・マイノリティの子どものうち、生まれたときに外性器の形状を根拠に割り当てられた書類上の性別と、自認する性（ジェンダー・アイデンティティ）が異なるトランスジェンダーの子どもの生きづらさについて考えた。トランスジェンダー男子を育てている沼倉智美さんは、親として子どものありのままを受け入れるまでの葛藤や、子どもが二次性徴に悩み苦しんだ日々に伴走したつらさ、学校や周囲の環境を変えながら、他の当事者親子とのつながりをつくる活動などについて報告した。またトランスジェンダー女性であることをオープンにし、学校や地域社会に性の多様性と人権尊重の教育を広める活動をしている中学校教員の永井恵さんは、ご自身の子ども時代の学校体験なども含めて、学校をどう変えようとしてきたかを報告した。そして第 3 回目の 2025 年は、2 回目で明らかになった学校の性別二分化が作り出す生きづらさについて引き続き考えた。高校教員の土肥いつきさんは、2006 年からトランスジェンダー生徒の交流会を開催し、当事者が安心して語れる場をつくってきた。またトランスジェンダー当事者の学校体験インタビュー調査を行い、その研究成果を博士論文にもまとめ、著書『トランスジェンダー生徒と学校ー「抱えさせられる」困難と性別移行をめぐる実践』（生活書院、2025 年）も刊行した。そうした土肥さんの実践と研究から、トランスジェンダー生徒が直面する学校での困難と、性別移行の実践等について報告していただいた。

これまで「セクシュアル・マイノリティの子どもの生きづらさ」に焦点をあててきた。割り当てられた性別と性自認が一致するシスジェンダーでかつ異性愛者である人々がマジョリティだが、そうした子どもたちにも性的な生きづらさは生じている。誰もが人権としての性を尊重され、相互に尊重しあうことができるように、学校での包括的性教育が望まれている。第 4 回の今年度は、性の多様性と包括的性教育について先行的に行っている自治体の事例なども含めて報告いただき、これまでの総括的な内容にしたい。

司会：片岡 洋子（千葉大学名誉教授）



自由研究発表（A）：一般研究
10月17日（土）13：00～15：00

第1分科会

子どもの学び・表現の内実

司会：本田 伊克（宮城教育大学）
村越 含博（北海道教育大学）

13：00～13：25

- ＊ 意図的主体性と没頭的主体性
ー「主体的な学び」をどうみるかー

守屋 淳（北海道大学名誉教授）

13：25～13：50

- ＊ 社会的養護下に生きる中学生たちと運動会ダンス創作
ーある体育教員の語りを中心にー

高野 裕子（武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 博士後期課程）

13：50～15：00

全体討議



自由研究発表（A）：一般研究
10月17日（土）13：00～15：00

第2分科会

教師の専門性・教師の在り方を問う

司 会：阿部 真一（都留文科大学）
土屋 直人（岩手大学）

13：00～13：25

- ＊ 小学校教師の専門性とは何か
ーその④ 自己の実践史をふり振り返りながらー
北川 健次（近江八幡市立島小学校／相愛大学非常勤講師）

13：25～13：50

- ＊ 教員であること、あり続けることについてのー考察
ー世代ごとの教員の語りの分析の比較検討ー
内田 一樹（立命館大学院人間科学研究科）

13：50～14：15

- ＊ 教師が学び直しに向かう契機
ー主体的な学び方をしている子どもの学級担任の語りに着目してー
治部 雄都（藤女子大学大学院）

14：15～15：00

全体討議



自由研究発表（A）：一般研究
10月17日（土）13：00～15：00

第3分科会

生き方を模索する大学生への接近

司 会： 山内 清郎（立命館大学）
川越 ゆり（東北文教大学）

13：00～13：25

- * 保育者・小学校教員養成課程の学生のこれからの教育・保育をめぐる語り
ー国際バカロレア知と SF 思考を媒介としてー

竹村 昌江（無所属）

13：25～13：50（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

- * 大学生における親子関係の影響を捉える
ー進路選択をめぐる事例から

○ 松元 圭（新潟医療福祉大学）
三品 拓人（筑波大学）

13：50～14：15（共同研究であるが発表者1名であるため、1名分の時間設定とする）

- * 「悩みを自覚できない大学生」のスクリーニングとして終末糖化産物（AGEs）の有用性を検討する

○ 小堀 晶子（新潟医療福祉大学）
松元 圭（新潟医療福祉大学）

14：15～15：00

全体討議



自由研究発表（A）：一般研究
10月17日（土）13：00～15：00

第4分科会

臨床教育学の実践・思想の模索

司 会：影浦 紀子（東雲女子大学）
佐藤 隆（都留文科大学）

13：00～13：25

＊ 経験をつなぐ実践者の語り

—離島地域における幼小連携・接続の成果と実践継承の課題—

宮本 雄太（福井大学）

13：25～13：50

＊ 小嶋直太郎の教護理念の形成過程

—京都府立淇陽学校での一次資料からの検討—

荒木 実代（福山平成大学）

13：50～15：00

全体討議



10月17日(土) 15:30~17:30

シンポジウム

臨床教育学は地域教育および地域課題にいかなる知見と実践を提供しうるのか
— 新潟水俣病教育を事例として —

報告者：加藤 聡史（新潟田市立猿橋小学校・教諭）

新潟医療福祉大学の学生ら（2名を予定）

松元 圭（新潟医療福祉大学）

小堀 晶子（新潟医療福祉大学）

指定討論者：庄井 良信（藤女子大学）

<趣旨>

2025 年は新潟水俣病公式確認から 60 年の節目であった。被害を受けた当事者らは今も健康被害と被差別意識に苦しんでいることに加え、開始から 10 年を超える法廷闘争の最中にある。しかしながら、2025 年に新潟県が実施した「新潟水俣病の普及啓発に関する意識調査について」では、若年層における新潟水俣病に対する興味関心の低さや、継承の断絶が生じつつあることが明らかとなった。その一方で、学校教育を通じた普及啓発を望む声も強い。

では、こうした課題に対し、臨床教育学および地域教育はどのような役割を果たしてきたのか、また今後果たしうるのだろうか。新潟水俣病をめぐる問題は、戦後日本の復興における光と影を象徴すると同時に、今日国際社会が直面する環境との共存という大きな課題に繋がる事象である。こうした諸問題に対し、領域架橋的な学問である臨床教育学はいかなる知見を提示しうるのか。

本シンポジウムでは、新潟県が実施している新潟水俣病関連情報発信事業を受託して行われている新潟水俣病教育に参加した学生の語りを題材に、臨床教育学が地域教育にいかなる知見と実践を提供できるのか、フロアを交えて検討したい。

司会（趣旨説明を含む）：高口 僚太郎（長岡技術科学大学）

2日目 10月18日(日)



- 9 : 30 ~ 受付開始
- 10 : 00 ~ 12 : 00 課題研究Ⅱ・Ⅳ
- 13 : 00 ~ 15 : 00 自由研究発表(B) : 実践事例研究
- 15 : 00 ~ 15 : 30 休憩
- 15 : 30 ~ 16 : 45 定期総会



10月18日（日）10：00～12：00

課題研究Ⅱ：子ども・若者の育ちや自立を支える地域からの共同

家庭と学校をつなぎ子ども・若者を生活の中で教育する － 寄宿舎教育の今までとこれから －

報告 1：寄宿舎教育の今までとこれから

－ 寄宿舎教育の理論と実践の往還から －

小野川 文子（元北海道教育大学釧路校）

報告 2：寄宿舎での生活習慣とコミュニケーション支援の取組

－ 「暮らし」の中で育つカー

小杉 庸之（新潟県立上越特別支援学校）

＜趣旨＞

ここ数年本課題研究は、一面で「分断と排除が深刻さを増している社会と教育」を直視しながらも、「包括的で切れ目のない支援を通じて包摂的な社会と教育」を探ってきたと言ってよいだろう。そのため、地域における子ども・若者の支援の多様な取り組みに学んできた。NPO による仕事起しを含めた若者就労・自立支援、学童や中学生への居場所づくりや学習支援、校外資源と結んだ学校内不登校サポート、等々の取り組みに学んできた。

ただ、こうした子ども・若者の中で、障害を抱えた家庭と子ども・若者における固有の自立課題と特有の生活と教育のあり方、について十分に取り上げてこれなかった。それを、「寄宿舎教育の今までとこれから」「新潟での寄宿舎における生活と教育」について報告をして頂き、皆で議論し合いたいと思う。

なぜなら寄宿舎教育は、「家庭と学校をつなぎ子ども・若者を生活の中で教育する」という特有の機関であると同時に、生活と教育を通じて自立の見通しの開拓と関係性と能力の育成という普遍的な教育の課題をも豊かに含み込んでいるからである。そこでは「子どもの発達のはたけである『生活』が今、教育分野では語れなくなったように思われる。とりわけ障がいや病気のある子どもにとっての『生活と教育の結合』を実践と理論の往還によって追求してきた寄宿舎教育から考えたい」という意図で報告されるものである。ぜひ皆さんで考えあえるようになることを期待したい。

司会：富田 充保（相模女子大学）



10月18日（日）10：00～12：00

課題研究Ⅳ：教師の専門性の再検討

教師の「子ども理解」と「同僚性」を深める

趣旨提案：佐藤 隆（都留文科大学名誉教授）

報告 1：教務として担任と成長する

ー子どもと一緒に「みる」ことを通してー

佐伯 岳彦（滋賀・公立小学校）

報告 2：人間的なぬくもりの中で 2026

ー子どもとともに教師も育つ学校ー

薦 緑（秋桜高等学校）、壽山 雅美（秋桜高等学校）

<趣旨>

2000 年代に入ってから、文科省は教師の「資質能力」の向上に焦点をあてた養成・採用・研修にかかわる施策を進めてきました。特に 2015 年の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて」では、大学に対して「教職課程コアカリキュラム」に基づいた教職科目の設定を求めました。また、すべての都道府県、政令指定都市に「教員育成指標」の作成を義務づけています。

これらの特徴は、教師の「資質能力」の向上は個々の教師の努力義務とされる一方で、そこで示されている「資質能力」は、「何年目には、～ができる」などというかたちで、「チーム学校」のなかでの自分の役割を果たすことが求められるものとなっています。このため、目の前の子どもとの関係のなかに自らの仕事の意味を見出すよりは、そこから切り離され細分化された評価項目に即応する「資質能力」を向上させることに追われざるをえなくなっています。このような事態が進行すれば、「教員育成指標」の一覧表に示された「資質能力」の項目を満たす「すぐれた教師」像の枠組に、自らの行動や感情を閉じこめていくことにつながりかねません。

はたしてこれで教師としての専門性を身につけていくことになるのでしょうか。教師のしごとには、D.ショーンが指摘するように、「行為のなかで省察」し、複雑で価値葛藤をとまなう状況との対話が求められており、そのことを通して「子ども理解」をはじめとする「専門家の知恵」が生み出され、獲得されていくものであるはずです。そして、そのためには、その文脈をともに読み解く「同僚」の存在がどうしても必要になります。そうした役割を、校長の強力なリーダー・シップのもので管理されている「チーム学校」が果たせるとはとても思えません。そうだとすれば、本当の意味での「同僚」をどこに見出し、そのなかでどのように専門性を育て上げるのかが、いま問われているのではないのでしょうか。

司会：春日井 敏之（近江兄弟社高等学校、立命館大学名誉教授）

福井 雅英（滋賀県立大学）



自由研究発表（B）：実践事例研究
10月18日（日）13：00～15：00

第1分科会

子ども・若者の葛藤と関係的自己の変容

司会：松田 康子（北海道大学）
藤川 和俊（東京国際大学）

13：00～14：00

＊ 進行性疾患を有する子どもの育ちと学級コミュニティの包摂的変容過程
南雲 敏秀（福井大学）

14：00～15：00

＊ 学校に行きづらさを感じた経験を持つ若者たちによる意見表明のプロセス
小泉 広子（桜美林大学）
金井 玲奈（桜美林大学）
友永 美帆（桜美林大学）



自由研究発表（B）：実践事例研究
10月18日（日）13：00～15：00

第2分科会

教員養成課程の学生と「教師としての自己」の育ち

司 会：沼田 あや子（立命館大学）
吉岡 眞知子（東大阪大学）

13：00～14：00

- * 教員をめざす学生の内発的成長を期す教育実践から
ー思春期の子どもによる詩に学んでー

加藤 恵美子（桃山学院大学人間教育学部）

14：00～15：00

- * 教職課程科目「道徳の指導法（中等）」の授業実践について考える
ー道徳性の涵養と読書ー

泉 宜宏（元東京都公立小学校教員／元都留文科大学教職支援センター）



【日本臨床教育学会第 16 回研究大会に関する問い合わせ】

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

東大阪大学 渡邊由之研究室

日本臨床教育学会事務局

E-mail : crohde2011@yahoo.co.jp